

# 鉄筋コンクリート標準示方書解説

## 目 次

1編 総 則		
1章 総 則	.....	53
1条 適用の範囲	.....	53
2条 定 義	.....	53
3条 記 号	.....	54
2編 施 工		
2章 コンクリートの品質	.....	57
4条 総 則	.....	57
5条 強 度	.....	57
6条 圧縮強度試験	.....	57
3章 材 料	.....	57
7条 総 則	.....	57
1節 セメントおよび混和材	.....	57
8条 セ メ ント	.....	57
9条 混 和 材	.....	57
2節 水	.....	57
10条 水	.....	57
11条 海 水	.....	58
3節 細 骨 材	.....	58
12条 総 則	.....	58
13条 粒 度	.....	58
14条 粒度変化の許容範囲	.....	58
15条 有害物の許容含有量	.....	58
16条 有機不純物	.....	58
17条 耐 久 性	.....	59
4節 粗 骨 材	.....	59
18条 総 則	.....	59
19条 粒 度	.....	59
20条 有害物の許容含有量	.....	60
21条 耐 久 性	.....	60
22条 すりへりにたいする抵抗性	.....	60
5節 耐火構造用骨材	.....	60
23条 耐火構造用骨材	.....	60
6節 鉄 筋	.....	61
24条 材 質	.....	61
25条 寸法および断面積	.....	61
7節 材料の貯蔵	.....	61
26条 セメントの貯蔵	.....	61
27条 骨材の貯蔵	.....	62
28条 鉄筋の貯蔵	.....	62
4章 配 合		62
29条 総 則	.....	62
30条 水セメント重量比	.....	62
31条 ウオーカビリチー	.....	63
32条 粗骨材の最大寸法	.....	63
33条 粗細骨材重量比	.....	64
34条 セメントの最小使用量	.....	64
35条 配合の表わし方	.....	64
36条 特別の場合	.....	65
5章 練り混ぜ		65
37条 材料の計量	.....	65
38条 練り混ぜ	.....	66
39条 練り返し	.....	66
40条 レデーミクストコンクリート	.....	66
6章 コンクリート打ちおよび養生		66
1節 コンクリート打ち	.....	66
41条 準 備	.....	66
42条 取 扱 い	.....	67
43条 シューチング	.....	67
44条 締 固 め	.....	68
2節 養 生	.....	68
45条 養 生	.....	68
3節 継 目	.....	68
46条 総 則	.....	68
47条 打 継 目	.....	69
48条 柱の打継目	.....	69
49条 床組の打継目	.....	69
50条 アーチの打継目	.....	70
51条 打継目の用心鉄筋	.....	70
52条 伸縮継目	.....	70
53条 滑面継目	.....	70
54条 水密打継目	.....	70
7章 鉄 筋 工		71
55条 鉄筋の加工	.....	71
56条 鉄筋の組立て	.....	71
57条 鉄筋の継手	.....	71
8章 型 わく		72
58条 総 則	.....	72
59条 せき板	.....	72
60条 型わくおよび支保工	.....	73
61条 組立て	.....	73

62条 面 取 り	73	96条 不静定構造物	85
63条 塗 布	73	97条 支持部材のうける荷重の計算	85
64条 一時的開口	73	98条 応力度の計算	85
65条 型わく取りはずし	73	99条 不静定力の計算	86
66条 型わく取りはずしの順序	74	100条 ずれ応力度	86
67条 型わく取りはずしの時期	74	101条 付着応力度	87
<b>9章 寒中コンクリートの施工</b>	<b>75</b>	102条 鉄筋の定着	87
68条 材料の貯蔵	75	103条 ハンチ	88
69条 材料の加熱	75	104条 T形ばかりの突縁の有効幅	89
70条 水 量	76	105条 版における集中荷重の分布	89
71条 練り混ぜおよびコンクリート打ち	76		
72条 養 生	76		
73条 凍害をうけたコンクリート	76		
<b>10章 水密を要する鉄筋コンクリート</b>	<b>76</b>		
74条 総 則	76		
75条 水 量	77		
76条 細骨材の粒度	77		
77条 防 水 材	77		
78条 継目およびひびわれ防止	77		
79条 排 水 工	77		
80条 防 水 工	77		
<b>11章 海水の作用をうける鉄筋コンクリート</b>	<b>78</b>		
81条 総 則	78		
82条 セメントの最小使用量	78		
83条 最大水セメント重量比	78		
84条 混 和 材	78		
85条 コンクリート打ち	78		
86条 鉄筋およびコンクリートの保護	78		
<b>12章 表面仕上げ</b>	<b>79</b>		
87条 表面仕上げ	79		
<b>13章 エアー エントレインド コンクリート (AEコンクリート)</b>	<b>79</b>		
88条 エアー エントレインド コンクリート	79		
<b>14章 試 驗</b>	<b>79</b>		
89条 現場試験	79		
90条 載荷試験	79		
<b>3編 設 計</b>			
<b>15章 設計基本</b>	<b>81</b>		
91条 総 則	81		
92条 設 計 図	81		
<b>16章 荷 重</b>	<b>83</b>		
93条 静荷重および動荷重	83		
94条 温度変化	84		
95条 乾燥収縮	85		
<b>17章 設計の計算に関する一般事項</b>	<b>85</b>		
96条 不静定構造物	85		
97条 支持部材のうける荷重の計算	85		
98条 応力度の計算	85		
99条 不静定力の計算	86		
100条 ずれ応力度	86		
101条 付着応力度	87		
102条 鉄筋の定着	87		
103条 ハンチ	88		
104条 T形ばかりの突縁の有効幅	89		
105条 版における集中荷重の分布	89		
<b>18章 一般構造細目</b>	<b>92</b>		
106条 鉄 筋	92		
107条 かぶりの一般標準	92		
108条 耐火構造におけるかぶり	93		
109条 面 取 り	94		
110条 伸縮継目	94		
<b>19章 部材の設計</b>	<b>94</b>		
1節 1 方 向 版	94		
111条 構 造 細 目	94		
112条 版のスパン	95		
113条 連続版の曲げモーメントおよびずれ力	96		
114条 等スパンで等分布荷重をうける 連続版の曲げモーメント	97		
2節 2 方 向 版	98		
115条 構 造 細 目	98		
116条 版のスパン	98		
117条 4 辺の支承状態が同一な 2 方向版に おける等分布荷重の配分	98		
118条 支承と単体的に造られた 2 方向 版が等分布荷重をうける場合の 曲げモーメントおよびずれ力	98		
119条 2 方向版を支える支承ばかりのう ける荷重	101		
3節 は り	102		
120条 構造用細目	102		
121条 はりのスパン	103		
122条 支承と単体的に造られたはりに おける曲げモーメントおよびずれ力	103		
223条 支承と単体的に造られた等スパ ンで等分布荷重をうける連続ば りの曲げモーメント	104		
124条 連続ばかりおよびラーメンにおけ る支点モーメントの近似解法	104		
4節 2 方 向 配筋のフラット スラブ構造	105		
125条 構 造 細 目	105		
126条 計 算 方 法	106		
5節 柱	107		

127条 構造細目	107	137条 鉄筋の配置	115
128条 柱の高さ	109	138条 フーチングまたは受台と柱との接合部の設計	115
129条 外力	110	7節 摳壁	116
130条 短柱および長柱	111	139条 土圧および設計断面	116
131条 短柱の許容中心軸方向荷重	111	140条 外力にたいする安定度	116
132条 長柱の許容中心軸方向荷重	112	141条 設計および構造の細目	117
133条 偏心軸方向荷重をうける柱	112	20章 許容応力度	117
6節 フーチング	113	142条 コンクリートの許容応力度	118
134条 総則	113	143条 鉄筋の許容応力度	119
135条 応力の計算	113	144条 地震力をえた場合の許容応力度	119
136条 設計断面	114		